

## 生涯を訪ねて、読む。

30

Feeling like a small trip

札幌農学校で学び、改称した東北帝国大学農科大学で英語講師を務めた作家・有島武郎。短期ながら地元紙の校正係として在札し、一編の私小説を書いた歌人で詩人の石川啄木。そして地域の文化活動を育てた作家たちの句や歌の数々。彼らの生涯の中にあるこの地との縁を知ってから、改めて作品を読んでみたい。



### 有島武郎邸跡 A-5/1

北12条西3丁目  
※建物は札幌芸術の森に移設

### 石川啄木の下宿跡 A-6/3

北7条西4丁目  
札幌クレストビル1階



▲俳誌「はまなす」を刊行し、北の風物を詠み活躍。



▲北海道の俳壇指導者として活躍。

### 水野波陣洞句碑 E-2/79

東茨戸132 ガートキングダムサッポロ内

### 川端麟太句碑 E-2/80

31

Feeling like a small trip

## 古書に、夢中になる。

歴史ある文教地区には、必ずといっていいほど専門書がたっぷり詰め込まれた本の蔵が存在する。1930年創業という南陽堂書店も、一歩足を踏み入れると知ることの楽しさを教えてくれる良書が渦巻く、知の迷宮が広がっている。店主の高木秀了さんは、店主の好きな分野こそがその店の個性だと話し、店にはこよなく愛する蝶をはじめ、ここでしか出会うことができない昆虫文献を多数在庫している。本や読書を取り巻く環境が変わっても、好きなものやことを突き詰める最良の友として古書は確かな力を発揮し続ける。

南陽堂書店 北8条西5丁目 営業時間 10:00~18:00  
日・祝休 Tel.(011)716-7537

## 旧藤高等女学校校舎跡(現キノルド資料館) B-5/22

北16条西2丁目 藤学園内

カトリック札幌教区長のキノルド司教が尽力し開校。校舎はスイス出身のヒンデル氏による設計で、タマネギ型の塔を乗せていることから「玉ねぎ塔の校舎」と呼ばれ親しまれていた。その後解体され、外観の一部を再現した資料館が建てられた。



## 北海道大学旧札幌農学校図書館読書室・書庫

北9条西8丁目 北海道大学構内

国登録有形文化財 A-5/13

T字型平面を持つ木造平屋建の読書室は、主棟屋根上部にある2つの小塔と側面に交互に並んだ窓上の三角と楕形のペディメント装飾が特徴。書庫はレンガ造の2階建。明治35年(1902)竣工。



※外観観覧のみ。



## 古河講堂

国登録有形文化財

北9条西7丁目 北海道大学構内

A-5/12

フランス・ルネサンス風のマンサード屋根、両翼にはドーマー窓が配された華麗なる洋館は明治42年(1909)に完成。古河財閥が寄贈。※内部は非公開。

国指定重要文化財 A-5/21

## 札幌農学校第2農場

北18条西8丁目 北海道大学構内

明治10年(1877)に建設された一軒の畜産農家を模した実績・模範農場。当時のアメリカ中西部で用いられていた軽木骨造りのバルーン・フレーム(風船構造)様式を採用。乳牛などの畜産経営のノウハウがなかった時代に、近代的な欧米の技術を導入したモデル施設であり、12棟の興味深い建物が並ぶ。大正元年(1912)に建てられた緑飼貯蔵庫は道内最古のサイロ。模範家畜房(モデルバーン)は、W・ホイラーの設計に基づき、安達喜幸が実施設計を行った。壁面に牛の彫刻が施されている。



※公開は屋外のみ。

## 篠路駅周辺の倉庫群 E-3/71

篠路3条7丁目

かつては石造りやレンガ造りの多くの倉庫が建ち並んでいた篠路駅周辺。全国に向けて玉ねぎを発送するなど、野菜の出荷基地だった。



## 近藤牧場 B-2/30

新川694

大正4年(1915)創業の市街地に残る数少ない牧場のひとつ。非常に珍しい構造の木製サイロと札幌軟石を使用したサイロを持つ。



※個人の牧場のため見学不可。

## 歴史的建築を、撮る。

北区には、貴重な文化遺産である数多くの建築物が現存している。今ではなかなか見られない意匠、当時ならではの様式や素材使用など、その建築が持つ空気や周囲と調和する風景、気に入ったポイントをカメラで切り取りたい。

## 札幌初の公園を訪ねる。

借楽園跡・清華亭

借楽園跡 A-5/5

市指定有形文化財

清華亭 A-5/6

北7条西7丁目

29

Feeling like a small trip



清華亭



借楽園跡

北7条西7丁目を中心とした広大な敷地にあった「借楽園」。明治4年(1871)に開拓使が設けた市民の憩いの場である一方、産業振興の場でもあった。泉が湧き、清流が流れる景勝地に、農業試験場やサケマスふ化場などの産業振興施設も造られていた。また、明治天皇の札幌御行幸の休憩所として明治13年(1880)に建てられた開拓使貴賓接待所「清華亭」は、時計台、豊平館と共に札幌最古の洋風建築。内部は、縁側のある和室と大きな張出し窓が広がる洋室が1室ずつある和洋折衷の造りになっており、今もその美しい姿を見ることが出来る。玄閣上部には、開拓使ゆかりの建物として「五稜星」がデザインされている。